

第４２回原子力委員会定例会議議事録

１．日 時 ２００４年１１月２日（火）１０：３０～１１：１０

２．場 所 中央合同庁舎第４号館７階 共用７４３会議室

３．出席者 近藤委員長、齋藤委員長代理、木元委員、町委員、前田委員
 内閣府
 戸谷参事官、後藤企画官、犬塚補佐

４．議 題

- （１）平成１７年度原子力関係経費の見積りについて
- （２）第９回市民参加懇談会の開催結果について
- （３）その他

５．配布資料

- 資料１ - １ 平成１７年度原子力関係経費の見積りについて（案）
- 資料１ - ２ 平成１７年度原子力関係経費の見積りについて（概要）（案）
- 資料２ 「第９回市民参加懇談会」～核燃料サイクル政策に関してご意見を述べていただく場として～の結果について
- 資料３ 第４１回原子力委員会定例会議議事録（案）

６．審議事項

- （１）平成１７年度原子力関係経費の見積りについて

標記の件について、戸谷参事官より資料１ - １及び１ - ２に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

- （前田委員）資料１ - １のⅠ - １５ページ「３．原子力科学技術の多様な展開」とⅠ - ２０ページ「５．国際社会と原子力の調和」にＩＴＥＲ（国際熱核融合実験炉）計画が全く同じ表現で載っているのはどういうことか。
- （戸谷参事官）両方の観点から説明できることから、同じ施策が再掲された

ものである。

(前田委員) 章の予算表の３．と５．に載っている、対応する金額が異なっているが。

(戸谷参事官) 基本的に３．の「ITER計画」と「ITER計画の推進」を足したものが５．の金額になっている。

(齋藤委員長代理) 他にも再掲はあるのか。

(戸谷参事官) 他にもある。「５．国際社会と原子力の調和」には、国際協力という観点から再掲されている他の章の施策がある。

(近藤委員長) 公募型研究である「革新的原子力システム技術開発」及び「革新的実用原子力技術開発費補助金」はともに「３．原子力科学技術の多様な展開」及び「６．原子力の研究、開発及び利用の推進基盤」に再掲されている。

(町委員) ２ページの公募型研究制度の説明に、「独創性のある」を追加したほうが良いのではないか。独創性は、公募型研究において重要であり、また特に日本ではそれを奨励する必要があると思う。

(近藤委員長) 公募型研究制度では、審査をする方が様々な観点から課題を選択する。例えば、経済産業省では実用性にも力点を置いた研究を行っており、独創性だけを強調すべきでなく、その選択の基準は「革新的」という共通理解でよいと思う。

(町委員) 「革新的」な技術を開発するためには「独創性」が必要であると理解する。

(木元委員) やはり「独創性」を追加すると選択の幅が狭くなると思う。色々な評価の観点の１つだと思う。

(齋藤委員長代理) 「独創性」は革新的技術のところではなく、基礎基盤研究のところで強調すべきであると思う。

(近藤委員長) 原子力委員会としては、こうした事業において独創性の取扱いに関心を持っていることを明らかにする。

(前田委員) ２ページの「原子力の非電力利用」とは何か。水素製造のことか。

(近藤委員長) 水素製造を含む核熱利用のことである。ところで、資料１－１はどういった位置付けになるのか。

(犬塚補佐) 委員会決定である。

(戸谷参事官) 委員会決定後、内閣総理大臣に報告し、関係省庁に通知する。

(齋藤委員長代理) ３ページの「美浜発電所配管破損事故」は一般の人が誤解しないように「２次系」を追加したほうが良いのではないか。

(木元委員) また、その前には「東電問題」と簡略化して書かれている。ただし、「配管」だけ書くと、「どこの？」と思われるので、「蒸気噴出事故」もしくは２次系を追加するのも良いと思う。

(近藤委員長) 自主点検記録不実記載に端を発する東電問題や美浜発電所２次系配管破損事故」とすることとする。それではそのように修正し、決定とする。

(２) 第９回市民参加懇談会の開催結果について

標記の件について、戸谷参事官より資料２に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

(近藤委員長) 委員各位に出席していただき、事務局の尽力により、成功裏に終わったと思う。資料２の最後に載っている「ご発言、参加の応募を頂いた際のご意見」では、批判的な意見が意外に少ない。また、幅広く全国からご意見が寄せられたと感じた。簡潔に要点を突いたものが多く、立派な意見集であると思う。

(木元委員) 勉強を始めたが、間に合わず、ご意見を出せなかったという方が２、３名いらっしまった。関心は呼んだと思う。意見を書くまでには至らなかったとのことなので、次回に期待したい。それから、これらのご意見は、自分はテーブルについての発言はしない、また会場には行けないが、きちんと言いたいことを言う、という気持ちがこもっていた。「読んでもらえましたでしょうか。」という電話が私の事務所などに来た。そういう意味では、広く浅くではなく、関心のある人には届いたと思う。

(近藤委員長) 論理がしっかりしたご意見が多かった。

(木元委員) 原子力委員会あるいは市民参加懇談会宛てに、同じ方から重ねてご意見が寄せられることが増えてくると思う。

(近藤委員長) 今回のご意見の集まり具合をどう理解して、広聴・広報の進め方をどうすべきかなど、考えるべきことがあると思う。

(前田委員) 美浜発電所の事故のことが半分以上を占めるかと思ったが、意外に核燃料サイクル、長期計画（原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画）に焦点をあてた意見及び議論が多く、有意義であった。開催した趣旨のとおり進めることができたと思う。

(町委員) 意見をもらった後の対応はどのようなのか。

- (木元委員)市民参加懇談会では、これまでもご発言をまとめているように、分野、テーマごとにまとめることを考えている。
- (町委員)頂いた方にわかるように伝えるのか。
- (木元委員)1人1人にはお答えしなくても、前回のパブリックコメントのように、頂いたご意見を、核燃料サイクルについては何通あった、このご意見はこう反映した、という形にまとめて、ホームページに公開することを考えていきたい。
- (近藤委員長)一般的に意見は、それが様々なプロセスを経て取り入れられることもあるが、無視されることもある。取り扱いには千差万別だと思う。
- (町委員)ご質問もあり、ご意見もあり、必ずしも全てが返事を必要としているわけではない。
- (木元委員)ご質問として寄せられた場合は、頭に入れておいて、例えば市民参加懇談会やご意見を聞く会の中で「こういう質問があったが、それはこういうことです。」とお答えしたり、「以前同じ質問にお答えしましたが、こういうことです。」と言えると思う。前々回の長期計画の策定の際には、パブリックコメントの約3000件の意見に対して、「あなたのご意見は確かに頂きました。」という文言を書いたはがきを送ったが、非常に大変だった。
- (齋藤委員長代理)「頂いたご意見を反映します」という言葉は、「自分たちの意見がどこに反映されたのか」と言ってくる。「ご意見は策定会議にご報告します」といった表現が誤解を招かず良いのではないか。
- (木元委員)「反映」を「自分の意見がそのまま載る」と解釈するのは間違いである。
- (齋藤委員長代理)「反映」という言葉を使うとそう誤解する人が出てくるのではないか。
- (木元委員)これまで所定の意味で「反映」という言葉を使ってきた。
- (近藤委員長)そういうプロセスをもって「反映」と言ってきたということである。ご意見は、毎回真摯に読み、我々の問題を探して改良改善に努めていく。日ごろ人にPDCA(Plan-Do-Check-Act)をまわせと言っているように、我々もPDCAをきちんと実施していきたい。
- (木元委員)当日発言された方からもわかるように、「核燃料サイクルは認めるが、こういう問題もある。」といった大変インパクトのあるご意見もあった。青森での「長計についてご意見を聴く会」では、芦野さんが放射性廃棄物の問題を言われた。こういったご意見は注目すべきものとして取り上げたいが、またそれにより「反映」の意味も理解してもらえと思う。

(町委員) 今回も、「原子力発電所の従業員には白血病が多い」、「再処理工場は絶対に事故が起こる」という誤った発言があり、やはり、わかりやすく正しい情報を伝えることは、いくら行っても足りないくらい大変なことであり、重要なことであると感じた。

(木元委員) あの場合それを訂正すべきだったようにも思う。ただし、あまりにも不勉強な場合に、時間を割いて 1 から説明するのもどうか。

(3) その他

- ・事務局より、11月9日(火)に次回定例会議が開催される旨、発言があった。